

駒澤書翰



第5号

発行日：
2023年5月21日
発行所：
株式会社エヌワイケー
〒154-0012
東京都世田谷区駒沢5-7-6
電話：
03-3704-8391
FAX：
03-3703-7121
発行人：
横山和俊

所長のひとり言 ー日韓首脳会談ー

お世話になります、所長の横山です。「所長のひとり言」のコーナーでは、私が日々新聞を読む中で気になった記事を紹介していきます。新聞は一覧性に優れた媒体ですが、たまには読み飛ばしをしてしまうことがあります。「そんな記事があったんだ」など、日々の閲覧の一助になれば幸いです。

韓国の尹錫悦(ユンソンニョル)大統領は、今月10日で就任から丸1年を迎えました。過去最悪ともいわれる日韓関係の中で就任した保守系の大統領に、私は関係の改善を期待し尹大統領の動向に注目していました。日韓関係を最悪にした一番の懸案事項はなんといっても徴用工問題です。18年に韓国最高裁(大法院)は、日本の植民地時代に日本で働かされた韓国人の元徴用工や遺族に賠償するよう日本企業に命じる判決を下します。1965年の日韓請求権協定で元徴用工への賠償は解決済みとの立場をとる日本としては到底受け入れることのできる判決ではありません。しかし、勝訴した原告は、韓国内にある日本企業の資産を売却し現金化する手続きを進めていきました。現金化されてしまえばもはや日韓関係の改善は不可能に近いと多くの関係者が認識する中、今年の3月、韓国政府は元徴用工問題について韓国の財団が原告への賠償を肩代わりするとの発表をしました。韓国世論の後押しが少ない中、尹政権としては非常に難しい決断だったはずです。しかし、それを起点に日韓関係は正常化への道へと歩み始めます。同月16日には韓国大統領としては12年ぶりとなる単独来日が実現し、5年ぶりに日韓首脳会談が行われました。そして、今月7日には、岸田文雄首相がソウルを訪れます。ソウルで行われた日韓首脳会談では、韓国世論を意識し、東京電力福島第1原発事故で生じた処理水の海洋放出に関して、韓国の専門家が現地視察をすることで合意。さらに尹大統領の招待が決まっている主要7カ国首脳会議(G7サミット)に合わせ、広島平和記念公園にある韓国原爆犠牲者の慰霊碑を日韓両首脳で参拝することも確認しました。日韓の関係正常化に向けた動きの背景にはロシアによるウクライナ侵攻や、米中対立による東アジア情勢の変化があるといえ、シヤトル外交が再開されたことは歓迎されるべきことです。韓国最高裁の判決以降、日本は対韓国への輸出管理の厳格化を決めました。さらにその報復措置と思われる韓国からの日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の一方的な破棄通告など、徴用工問題以外の上記の懸案事項も解決に向け動き出しました。3月の徴用工問題の解決策発表の前後から紙面では多くの日韓関係に関する記事が掲載されてきました。安全保障の観点からの記事を一つ紹介します。5月30日付日経新聞「アラート 緊迫の30分」との見出しで日米韓の情報共有体制の構築が急務であることを記者は訴えます。記事では北朝鮮が4月13日に発射した弾道ミサイルの実際の日本の分析を克明に記し問題点を指摘します。

13日午前7時22分ごろ自衛隊のレーダーは北朝鮮内陸部から飛来するミサイルを感知した。自動警戒管理システムによる予測経路は、北海道周辺の領域に落下する可能性を示した。防衛省はただちに内閣官房に情報を伝えた。北海道を対象にアラートを発令しようとした次の瞬間、追尾していたミサイルが防衛省のレーダーから消えた。防衛省の情報は錯さうし内閣官房がアラートを発令したのは午前7時55分、発射からおよそ30分後だった。そして警報から20分ほどたって、北海道への落下の可能性を否定した。今回、防衛相は分析の発表に1週間以上を要した。対する韓国は、首都平壤付近から1発を日本海に向けて発射し、1000km程飛行し日本海に落下したと発射直後に分析。一連の結果は防衛相のレーダーの死角を

露呈した。北朝鮮の発表により今回発射されたミサイルは3段構造だとみられている。途中、推進装置が分離した際、上昇角度が変わりリーダーから消えた可能性が高い。探知や追尾が困難なのは多段構造の新型大陸間弾道ミサイル（ICBM）だけではない。低い高度を複雑な軌道で飛び極超音速ミサイルなどはさらに難しい。日本から北朝鮮までは距離があり、丸い地球では死角となる。北朝鮮がミサイルを本当に日本に向けて飛ばす事態が起こった場合、30分後のJアラートでは間に合わない。内閣官房によると、北朝鮮が日本上空を通過するミサイルを発射した際の発射から到達までの時間は10分ほどだという。警報の迅速な発令は国民保護の重要な課題だ。着弾前に警報を聞き、頑丈な建物に避難できれば多くの人命を救える可能性が高まる。韓国のリーダーや米国の偵察衛星の情報を組み合わせれば、素早い発令に必要な情報の精度は増す。日米韓の探知情報をリアルタイムで共有するシステムの構築は喫緊の課題だ。

日韓関係の正常化がいかに重要か改めて確認できる記事でした。尹大統領の任期はまだ4年あり、関係を修復しお互いが必要となる関係を築く時間は十分あるはずです。文化レベルでは交流の深い両国です。今回のシャトル外交を機に政府間も信頼関係を深める努力をして欲しいです。

卒業スタッフ紹介 — 樋口広規（ひぐちひろき） —

お世話になります、ではなくお世話になりました奨学生の樋口広規です。私は先月、7年間勤めた駒沢販売所を卒業しました。駒沢大学入学に合わせて7年前、北海道旭川市より上京しました。姉二人に妹一人と兄弟も多く親に負担はかけられないとの思いもあり、入学が決まった当初より新聞奨学生をしようと決めていました。4年制のコースで入所しましたが、気が付けば7年（笑）、色々ありました。まずは大学。仕事と学業の両立は私にとって想像以上に大変で、希望する授業が受けられず1年留年する事態に。さらに就職活動も納得の結果を出せず今日にいたる、と。今まではどこか学業と仕事の両立なんてこんなもんだと思っていましたが、先月末、仕事をはなれて改めて7年間を振り返ると、過去には立派に両立して卒業していた先輩もいました。つまりは私の段取りの悪さや優柔不断さが当初の計画を遂行できなかった一番の理由だった事に気が付きました。しかし、後悔は全くしていません。なぜならばこの7年間で私は素晴らしい経験を積むことができたからです。一番の経験は出会いです。購読を通じてお客様との出会い、販売所の仲間との出会いです。入所当初は高校を卒業して間もない頃だったので、働く事への理解も未熟でした。同じく配達技術もまだまだ未熟で、雨の日には遅配のクレームが入ってしまいます。慣れない環境もあり、折れそうな心を奮い立たせてくれたのもお客様からの「頑張るなさい」との応援でした。また配達中の会話を通して親しくなったお客様もいました。そのお客様からは多くのことを学びました。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。そして販売所の仲間。大学卒業後、販売所に留まったのは素晴らしい仲間との時間を少しでも多く共有したかったからです。入所にオートバイの免許を取り、朝刊休みを利用し一泊ツーリングに行ったことは素晴らしい思い出です。今は就職活動中ですが、販売所での7年間の経験を今後の人生に生かしたいと思えます。

